



# 中学生短期交換留学報告

1月4日～14日

アスペン

杉本亜美



私は、飛行機に乗りアスペンまで行きました。長い距離を飛行機で行ったのでとても大変でした。

アスペンに着いて、ホストファミリーが待っていてくれました。久しぶりに会ったのでとても嬉しかったです。

私が、思い出に残っていることはたくさんあります。

1つ目は、スノーマスというところでスキーをしたことです。いろいろなところをすべることができ、とても楽しかったです。その中でもジャンプ台がとても楽しかったです。一度失敗して転んでしまいとても痛い思いをしました。私が転んでしまった時、ホストファミリーのエヴリーは駆け寄ってきてくれて手を差し伸べてくれました。そして、8日間どんな時も私のことを心配してくれました。とても嬉しかったです。

2つ目は、エヴリーとパスカル達とで「sorryゲーム」というゲームをしたことです。sorryゲーム

とはアメリカでも人気のゲームで、すごろくに近いゲームでした。いろいろなルールがあつて難しかったし、みんな強すぎてなのか、私に運がないのか、わからないけど、ほとんど負けてしまいました。でも、1回だけ勝つことができて嬉しかったです。

今回初めてのホームステイで、言葉が通じなくて大変な時もありました。そんな時、エヴリーやエヴリーの家族はわかりやすい言葉で話かけてくれて、簡単な単語を使ってくれたので、アスペンでの8日間は私にとってとても楽しい日々となりました。

また、私はアスペンに行つて「笑顔」の大切さを改めて感じました。アスペンに行つて、言葉が通じずに困った時があつたけれど、笑顔を見せると伝わることはありません。例えば、何か聞かれて答え方が分からない時に、笑



ミドルスクールで箸の使い方を教えました

僕は、冬休み中にアスペンへ行ってきました。僕がホームステイをしたクイントンの家族はとても親切でした。兄弟は、下に3人いました。赤ちゃんもいました。お母さんとお父さんは2人ずついました。どちらともとても親切にしてくれたので困ったこともなかったです。アスペンで一番思い出に残ったこ

アスペン

鈴木 徹





カントリーデイスクールでサッカー

とはスキーです。2回行ったうち、1回目はバターミルクというスキー場に行きました。小さいスキー場と言っていました。トマムのスキー場よりはるかに大きかったです。

ゲレンデには至る所にジャンプ台があつて驚きました。最初はアスペン生がやるのを見て2回目に軽くジャンプ、3回目以降はそれなりに慣れてきました。

途中、BOXがあつてやってみしました。けれどもうまくいかず、こけてしまいました。こけて滑っていくと急な坂がありました。どんどん加速していきましたが、先にジャンプ台があるのに気づかずそのまま飛んでしまいました。体を打ちましたが、痛さより驚きの方が大きかったです。日本のスキー場とアスペンのスキー場はか

なり違うなと思いました。

2回目に行ったスノーマスというスキー場はアスペンで一番大きいスキー場でした。

コースの横幅がとても大きかったことにも驚きました。スノーマスはジャンプ台よりもデコボコのコースが多かったです。一番怖かったのは、急な坂にかなり大きな穴のあるデコボコのコースでした。アスペン生もかなりゆっくり進んでいました。次に山頂に行きました。木が全くなかったのも景色がとてもきれいでした。コースはなだらかでしたが、途中から急になって横幅も狭くなってきました。所々に大きいジャンプ台がありました。アスペンが怖くてできませんでした。

アスペンのスキー場は日本とは比べものにならないほど大きかったです。

アスペンに行つて学んできたことは、言葉が通じなくても身振り手振りをすれば通じるということです。アスペン生と話しているとき、時々わからない単語がでてきて、わからない顔をする。アスペン生はすぐにジェスチャーをしてくれました。動きひとつするだけでわかるのはこの国でも同じだなと思いました。

アスペンで過ごした8日間は、本当に楽しく、貴重な経験をする事ができました。このような機会をつくっていただいて、本当に感謝しています。

## アスペンで過ごして

中嶋太一



アスペンで過ごす時間はすごく速かったです。アスペンで一番思い出に残ったのはスキーです。トマムのスキー場が小さく見えるほど大きく、比べものにならないくらいでした。

そしてその日の天候は晴天でした。天候にも恵まれゴンドラから降りたときのアスペンの街がすごくきれいで心をひかれました。気温ももちろんよく、気持ち良い風にあたりながら滑りました。また、アスペンの生徒みんなが上手くてとてもびっくりしました。小さいジャンプ台から大きいジャンプ台まであつて特に大きいジャンプ台では技を決めていました。僕たち占冠の私たちは、みんな最初全然していません。また、アスペン生たちが早くて最初は止まってくれていたのですが、終わりが近づくにつれてだんだん止まってくれる回数が減っていき、それにもなつてついでいくのが難しくなっていました。そんな感じでスキーをしていると気づけば終わりの時間になっていました。

まだやっていたいなあと思いつつ、楽しいスキーが終わってしまいました。

ハプニングもなく事が過ぎ、お別れの時間が来て、もう帰るのか、寂しいなあと思いつつ飛行機に乗りデンバーへ向かいました。ここまで順調でした。でも、デンバーに着いて、サンフランシスコに行こうとしていたとき、ハプニングが起こりました。原因不明のベルがコックピットで鳴り、何もわからずに僕はただ遅いなあと思いました。コーリーから原因を聞くと不安になり、しばらくするとライアンがコックピットの見学ができることを聞き、みんなで「すごいね」と言つて見学しました。

結局デンバーで4時間待たされ、サンフランシスコに着いたのが7時くらいになり、予定の観光ができなくなり、高級ホテルに期待しながら行く



レクリエーションセンターの前

と、期待どおりで、大きいベッドの上で寝ました。  
少しハプニングがあったけど、楽しい良い思い出になりました。

## アスペン

伴井拓也



僕は、アスペンに行つて来てたくさん  
の思い出が出来ました。

1つ目は、スノーマスでスキーをした  
ことです。スノーマスは、アスペン  
の中で一番広いスキー場でした。ス  
ノーマスには、ジャンプ台やボックス  
などたくさんあります。その中でも、一  
番楽しかった所は、ジャンプ台です。  
アスペン生は、とても高く飛んでい  
たのですが、僕は、あまり高く飛ぶ  
ことは出来ませんでした。しかし、初  
めてジャンプ台を経験してみても、  
とても楽しくてよかったです。

2つ目は、僕の家に、以前ホームス  
テイシに来たジュリエットとエリザ  
ベスに会えたこと、そしてリアムの家  
族に会えたことです。

リアムの家族とは、一緒に買い物  
をしたり、会話をしたことが、とても

しかったです。夜は、リアムと一緒に  
ゲームで遊んだり、パソコンでエック  
スゲームなどを一緒に見たことがと  
ても良い思い出に残っています。

僕は、アスペンでもとてもいい経験  
することが出来ました。言葉が通じ  
なくても、ジェスチャーなどをしてみ  
たりすることで通じたりするので、僕  
は、「言葉が通じなくても伝えようと  
する気持ちが大切だ」と強く感じてき  
ました。この体験を生かして、相手  
に伝えたい自分の思いや考えを伝え  
られるように日々努力をしていきたく  
いと思いました。

僕は、このような機会をつくってい  
ただきとても感謝をしています。ま  
た、占冠村の皆さんにも感謝をしてい  
ます。ありがとうございます。



カントリーデイスクールで折り紙を教えました

## アスペン

船橋千洋



僕はアスペンに行つてきました。

1日目はハンターが外国に行つて  
いてとてもビックリしました。それ  
で僕はハリーの家に泊まりました。  
僕と太一、ハリー、ハリーの友達とゲ  
ームをやりました。とても楽しかつ  
たです。

2日目にハンターが迎えにきまし  
た。それからハンターの家に行きま  
した。ハンターにゲームを誘われゲ  
ームをやりました。それからそりに  
行きました。着いてからカバンを車  
においていたら車ごとどこかに行つ  
てしまつてビックリしましたが、その  
ままそりをみんなでやりました。そ  
こでみんなで列になつて滑つたりし  
て楽しかったです。

4日目はターゲットに買い物に行  
きました。とても大きかったです。

5日目はコミュニティスクールに  
行きました。そこで王冠で磁石など  
を作ったりしました。それから買い  
物をしました。楽しかったです。

6日目はみんなで、スノーマスでス

キーをしました。アスペンの子はジ  
ャンプ台で技をしました。僕はジャン  
プだけやりました。着地がちよつ  
と痛かったです。

7日目はカントリーデイスクール  
に行きました。そこで僕が全然でき  
ない折り紙を教えました。とても大  
変でした。スノーシューはちよつと  
疲れました。

8日目はアスペンミドルスクール  
で箸の使い方を教えたり、箱を作つた  
りアスペンの子と遊んだりしました。  
楽しかったです。箸を教えてからハ  
ンターの家でお別れパーティー用のク  
ッキーを作つてゲームをみんなでし  
たり、ハンターの家にあるロックク  
ラ イムをやりました。  
とても楽しかったです。アスペン  
にまた行きたいです。



さよならパーティ用のクッキーづくり

## アスペン

松井千春



今回、私にとって2度目のアスペン引率となりました。前回(2年前)は、日本語を話すことのできる方の家に滞在しました。英語を上手に話すことのできない私でも、英単語を並べて、身振り手振りのジェスチャーをすることで、コミュニケーションを深めることができました。

今回、私を受け入れてくれたホームステイ先は、昨年十月に来村した2人のアスペン生の家で、前半4日間と後半4日間に分けて滞在しました。

アスペン空港に着くと、ホストファミリーの方々が私たちを温かく迎えてくれました。早速、前半お世話になる家族と一緒に家に向かいました。空港を出て、駐車場までの歩く途中、「大人の大人が!」と思われるかもしれませんが、2年前には全く味わうことのない「不安な気持ち」「孤独感」「緊張感」に襲われました。「5人の生徒たちも今頃こんな気持ちを味わっているのかな?」などと思いつながら車に乗り込んだのを覚えています。し

かし、40歳を目前にして、こんなに不安な気持ちや緊張感、そして孤独感を味わうことになるとは…しかも異国の地で…そう簡単にできることではありません。この感情が8日後にはどのように変化するのか、楽しみでもありました。

ホストファミリーの方々にも本当にお世話になりました。簡単な英語で、ゆっくりと話してくれ、時にはiPhone(アイフォン)の翻訳アプリを使用して、積極的にコミュニケーションを取ろうとしてみました。その気持ちに私は大変感動しました。私も、電子辞書を片手に積極的にコミュニケーションを取りました。

またアスペンでは、日本語を話すことのできるアメリカの方やネパールの方に出会いました。積極的にコミュニケーションを取ろうとしてくれた方々とのふれあいを通じて、「自分も英語を上手に話すことができれば、もっともっとアスペンの方々とも深い話ができるのだろう。そして、もっと相手のことを理解することができようの、だろう」と感じました。2年前、国際交流の第一歩として、手振り身振りのジェスチャーと笑顔は本当に大切なことであると実感しました。今回2度目のアスペン引率を経験して、「もっと相手のことが知りたい。そしてもっと自分のことを知ってもらいたい。そのためには、やはり英語を話せるようになりたい!」と思うようになりました。この心の変化に、自分で

も驚きました。

さて、5人の生徒たちは、8日間を終始笑顔でとことん楽しんでいました。とても恥ずかしがり屋さんの5人でしたが、スキーや作品作りなどを通して、アスペン生との交流を楽しんでいました。毎日、子どもたちの笑顔を見ていると、ホストファミリーとも上手くコミュニケーションを図ることができていたのだと思いました。

子どもたちにとって、アスペンで過ごした8日間は、一生の宝物になったのではないのでしょうか。私自身も、今後の教師生活において様々な刺激を受けることができた、素晴らしい経験となりました。この経験を授業などを通して子どもたちに還元していきたいと思っています。今回の訪問に参加できたことを、心より感謝いたします。ありがとうございました。

